

日本短角種産肉能力（間接法）検定成績

（畜試 肉牛部）

1. 背景とねらい

産肉能力直接検定成績が優れた種雄牛について間接検定を実施した。その検定成績が得られたので、種雄牛計画交配のための参考に供する。

2. 技術の内容

表1 平成3年度日本短角種間接検定成績

検定牛		崎 錦 n = 9	笹 宝 n = 8	初 秋 n = 8	琴 久 n = 7	宝 石 n = 8
生 年 月 日		63/ 2/21	63/ 3/22	63/ 2/10	63/ 3/ 7	63/ 2/22
登 録 番 号		本 991	本 1023	本 1019	本 1021	本 1022
血 統	父	崎 宝 (短高 13)	笹 豊 (短高 7)	秋蛇1315 (本 590)	琴類1019 (本 429)	崎 宝 (短高 13)
	母の父	雲 松 (本 179)	佐々光 (本 36)	畑 藤 (予 518)	川 久 (本 104)	松 藤 (本 625)
直接検定 D G		1.27	1.37	1.30	1.30	1.32
体 重	開始時	249.0 ±20.5	247.9 ±33.1	237.5 ±25.9	225.0 ±27.9	238.1 ±26.2
	終了時	560.7 ±24.8	569.4 ±67.7	572.0 ±39.4	566.9 ±60.9	614.1 ±60.2
1日当り増体量		1.01±0.07	1.04±0.16	1.09±0.11	1.11±0.13	1.22±0.16
1kg増体TDN		6.39	6.77	6.35	6.36	5.93
枝 肉 歩 留		60.8±1.3	62.3±0.9	61.8±1.2	62.2±0.7	61.0±1.3
ロース芯断面積		40.1±5.1	44.1±6.9	43.8±4.5	41.3±6.0	43.6±4.7
背部皮下脂肪厚		2.0±0.5	1.8±0.4	1.5±0.3	2.0±0.5	1.9±0.6
脂肪交雑 (BMS)		0.82±0.24	0.54±0.18	0.75±0.35	0.81±0.32	0.54±0.31
枝 肉 格 付		A4(1)A3(5) A2(2)B2(1)	A3(1)A2(7)	A4(1)A3(4) A2(2)B2(1)	A3(4)A2(1) B4(1)B3(1)	A3(1)A2(5) B3(2)

- 1) 崎錦：D G (1.01kg) 及び終了時体重 (560.7kg) は検定種雄牛中最低であった。皮下脂肪厚は適度 (2.0cm) でバラが厚い (6.1cm) が、ロース芯面積は小さかった (40.1cm²)。BMSは検定種雄牛中最も高く、肉質等級3以上の割合は66.7%だった。
- 2) 笹宝：1kg増体に要したTDN量がやや劣った。皮下脂肪厚は薄い傾向 (1.8cm) でバラも厚く (6.3cm) ロース芯面積は最も大きかった (44.1cm²)。BMS

は低く、肉の色沢及び肉のしまり・きめも劣った。肉質等級3以上の割合は12.5%であった。

- 3) 初秋：DGは検定種雄牛の中位であった。皮下脂肪厚は薄く（1.5cm）ロース芯面積は中位（43.8cm²）でバラはやや薄かった（5.6cm）。肉の色沢は2等級以下が見られなかった。肉質等級3以上の割合は62.5%だった。
- 4) 琴久：増体能力に優れた種雄牛であった。皮下脂肪厚は適度（2.0cm）でバラも厚かった（6.0cm）がロース芯面積は小さかった（41.3cm²）。BMSは崎錦に次いで高く、肉のしまり・きめ及び肉の色沢に2等級以下が見られなかった。肉質等級3以上の割合は85.7%と優秀な成績であった。
- 5) 宝石：DG及び1kg増体に要するTDN量ともに優れ、増体能力に特に優れた種雄牛であった。皮下脂肪厚（1.9cm）及びバラ厚（5.9cm）ともにやや薄く、ロース芯面積は中位（43.6cm²）であった。BMSは低く、肉のしまり・きめ及び肉の色沢にばらつきが大きかった。肉質等級3以上の割合は37.5%であった。
- 6) 検定成績から、肉質の安定した琴久及び脂肪交雑に優れた崎錦を人工授精用種雄牛として選抜する予定。

3. 指導上の留意事項

1) 間接検定法

(1) 検定期間

崎錦	笹宝	初秋	琴久	宝石
H3/11/07~H4/09/10		H3/11/14~H4/09/17		H3/11/28~H4/10/01

(2) 給与飼料

濃厚飼料；産肉能力間接検定用飼料（TDN73.0%，DCP10.0%）

体重比1.8%を全期間給与

粗飼料；乾草（TDN41.8%，DCP3.8%）及びデントコーンサイレージ（TDN21.2%，DCP1.5%）

肥育前期の前半及び肥育後期に乾草を不断給与

肥育前期の後半にサイレージを不断給与

- 2) 交配種雄牛を選定する際は近親交配を避ける。（近交係数を12%以下にすること）

4. 関連試験課題名

日本短角種産肉能力検定（間接法）